

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時に全職員が話し合い理念を作り上げた。玄関、2階エレベーター横の壁面、ホールのテレビの上に掲示し浸透に努めている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>事業所内に掲示するとともに、理念を共有し実践するために、月1回のミーティングの際に全職員と話し合い確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域の方に理解していただける様に、家族会、運営推進会議等、また入居相談時にパンフレットにて説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会に加入し地域の一人として日常的な挨拶、散歩時、買物時に挨拶や会話をしている。花畑や畑の手入れ、除雪などを手伝っていただいている。また、多目的ルームを地域に開放し、何時でも利用できるようにしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>全町行事、自治会などの行事及び地域活動には積極的に参加している。施設で行う避難訓練やふれあい広場にも地域の方々に参加していただいている。</p>	

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、参加者や地域住民の方々からの意見を聞くなど意見交換の場を設けている。また、キャラバン・メイトとして登録している職員が2名在籍しているので、地域の研修会等に派遣している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を有効に活用し、毎月の全体会議で様々な情報提供や改善点の話し合いを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回施設長、管理者、看護師、サブリーダーが出席する運営推進会議を開催し、施設概要及び理念、介護サービスを説明、意見交換を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町行政側、地域包括支援センター、地域福祉センター、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、消防支署と情報交換を密にしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当する事項は無いが、必要となった場合の為に資料を整えている。	○	社内会議等を通して全職員が理解できるように取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や月1回の社内会議で全職員との話し合いや、情報提供を行い虐待防止に努めている。		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、入居契約書等を丁寧に説明し、利用者や家族に不安や疑問が生じないように細心の注意を払い、トラブルが発生しないように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的な会話を通して気軽に意見や不満を言える関係になるように努めている。また、言葉で意思表示ができない場合には表情や動作から感じ取れるように努めている。意見、苦情があった場合には施設長、管理者と相談し早期に改善できるような取り組みをしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時及び通院時、通院に同行した時、家族会などに近況報告、健康状態、職員の動向について報告している。遠方の家族には定期的に手紙を出している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や苦情を受付ける窓口、担当者を明示し、意見や苦情が言える環境や体制を整えている。また、家族会や行事の時に積極的に意見を伺っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回社内会議を行い、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。また、日常勤務の中でも自由に話ができる環境作りに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の介護サービス提供に満足できる人員を職員と相談しながら確保し、シフト制勤務を実施している。また、勤務表作成時には職員の希望の休みがなるべく取れるように配慮している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員との意見交換を日常的に行い、ストレスや不満が軽減するように努めている。また、退職者が出た場合には、ハローワークなどの関係機関と協力して職員を即時補充し、利用者へのサービスが低下しないように対応している。</p>	

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会ごとに可能な限り積極的に受講させ、他の施設への訪問研修にも取り組んでいる。また、各種資格取得への支援も行っている。</p>	○	<p>今後もより良い人材を育成できるよう、計画的に研修の機会を設けていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、積極的に研修会へ参加している。また、北見地区のグループホームの勉強会にも参加しており、意見交換ができる機会を設けている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員の話聞ける体制がある。また、親睦会も定期的に行っており、職員のストレス解消に努めている。毎月の勤務もできる限り希望の休みが取れるように配慮している。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>可能な限り研修に参加できる体制があると共に、各種資格取得へ向けたバックアップ体制があり、資格に応じた賃金体系を構築している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に利用者の自宅、病院、施設等へ訪問して本人、家族とゆっくり話し合い信頼関係を築くと共に、本人、家族の意向に沿った援助が行えるように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>複数回にわたり時間をかけてゆっくりと話を伺い、不安やニーズを把握すると共に、施設が提供できるサービス等を説明し、理解していただいてから入居手続を行っている。</p>		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを的確に把握できるように努め、情報提供や他サービスの紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族から生活歴や趣味、好きなこと、嫌いなことなどをお聞きし、職員間で情報共有している。また、自宅で使用していた物を持込んでいただき、住み慣れた環境に近づけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で掃除、洗濯、家事、花壇、菜園等の活動を職員と一緒にしている。利用者の経験や知識が活かせるような双方向の関係作りに努めている。	○	できること、できないことを見極め、本人の持っている力を発揮できる場面を設けている。また、得意な事は本人から学び、職員と一緒にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の暮らしぶりを伝えて情報を共有し、介護方針についても相談しながら決定している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係や事情など、支障のない限り全職員が理解し、本人と家族の関係がより良くなるように努めている。また、家族が参加できる行事などを企画し、本人と交流できる場を設けている。	○	今後も家族と本人が良い関係を築きあげられるように、職員一丸となって支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人宅を訪問したり、町内の行事への参加時や散歩などの時に交流が持てるようにしている。また、友人、知人がホームに遊びに来れる環境を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームや行事などを通じ、利用者同士がふれあう機会を設けている。居室に居る時間が多い方にも、趣味を通して活動できるように支援している。また、気の合う入居者さん同士の訪室や食卓テーブルの席順にも配慮している。	○	今後も本人の個性に配慮し、良い関係が維持できるようにしていきたい。

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事等の案内や、近隣で会った時に会話をしている。継続的な関わりを必要とする方には、相談や支援に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	より良い生活ができるように、本人の言葉だけではなく表情や行動からも意向を把握するように努めている。また、家族や友人、知人や地域の方からの助言や情報提供を求めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの生活歴等を入居前に本人、家族等から聴き把握している。また、日常の会話等を通して情報の把握に努めている。	○	今後もプライバシーに配慮しながら、様々な情報を収集してより良い生活ができるよう支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し生活パターンや心身状態を把握している。また、できること、できないことを見極めて本人の持っている力を発揮できる場を設けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の社内会議で全職員が利用者の諸課題を検討し、本人、家族の思いを含め、幅広い意見を取り入れた介護計画を立案している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、それ以前に変化があった場合には、本人、家族等と協議し現状に即した計画を作成している。		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用するとともに、生活記録、業務日誌等で日々の様子や介護の内容をケアプランと連動しながら記録している。また、個人ごとに申し送りノートを作成し情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	型にとらわれない介護サービスを心がけ、知恵を出し合いながら柔軟な対応をしている。必要に応じて受診等の付き添いも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、警察(防犯・交通)、消防(火災・救護)、福祉施設、社協等と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター等のケアマネジャー、サービス事業所等と連絡を取り、必要に応じてフォーマル、インフォーマルサービスを含めて利用できるように支援、紹介できる体制をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症サポーター養成講座などを通じて地域包括支援センターと連携を密にし、協力を得ながらより良い介護を目指している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を選択し、適切な医療が提供されるように支援するとともに、必要に応じて受診に同行してより密接な連携がとれるようにしている。		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後も家族、医師と連携できるように努めたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりが尊厳ある生活ができる様に日常の介護には注意を払い、記録類は決まった場所に保管している。また、職員の採用時には個人情報に関する誓約書に署名、捺印している。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	飲み物や食事などの小さなことから、自分の思いや希望を話しやすい体制を作り、自己決定できるように努めている。また、本人が納得できるように分かりやすく、丁寧な説明をするように心掛けている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人ひとりの生活のリズムを大切にし、利用者の希望を最優先に考えている。食事やおやつ時間も決まってはいるが、希望があれば時間変更をしている。日中の散歩や買物などは職員の仕事を調整し希望に沿えるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	好きな服が着られるように利用者の意見を聞き、家族の協力を得ながら支援している。また、行きつけの理・美容院に行けるようにしている。	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事が楽しくなるように旬の献立を考え、利用者と一緒に作り、盛り付け、片付けも行っている。季節の旬が楽しめるように夏、秋には自分で作った野菜、秋には鮭、カレー、ホッケなど、食に関して常に興味を持っていただけるように努めている。	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	利用者の希望を聞きながら、飲み物やおやつは日替わりで日常的に楽しめるように配慮している。飲酒、喫煙も医師の許可があれば楽しんでいただける様にしている。	

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を原則とし、センター方式を活用して排泄パターンを把握し、できるだけおむつをしない介護を行っている。利用者が羞恥心を持たず、自尊心を大切に介護を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者については、最低週2回以上入れるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	センター方式を活用して生活のリズムを把握し、安心して睡眠できるように配慮している。また、眠れない時には温かい牛乳を出したり、不安なことがないか話をゆっくりと聞くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの残された力を見極め、好みに合った役割を持つように配慮している。また、散歩、犬の世話、菜園、買物、公民館などへの外出の支援も積極的に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて小遣いを所持していただき、買物や理・美容院の支払は社会性の維持のためにもできるだけ自分で行ってもらっている。自分でできない方には職員が支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、花畑、菜園作り、買物、生涯学習センター、公民館、スポーツセンターなど一人ひとりの希望で外出できるように支援している。また、家族の面会時などにも外出できるように協力していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの施設行事や町の行事など、利用者の希望を取り入れながら施設の車輛で出掛けている。	○	今後も家族が参加しやすいような行事を企画し、利用者や家族がふれあうことができる機会を多く設けていきたい。

自己評価 GHはなおけと すずらん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたい時、手紙を出したい時は一緒に郵便局に行ったり、必要に応じて代筆をしたり、家族や友人との関係が継続するように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間でも事前に連絡があれば面会ができるなどの柔軟な対応をしている。また、ホールや居室でゆっくりと話ができる雰囲気作りやお茶などのおもてなしを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時、外部研修に参加し理解を深めるとともに、研修に参加できなかった職員にも内部研修を通して身体拘束は絶対に行わない事で確認している。	○	今後も禁止行為について詳しく理解、認識するように研修を重ね研鑽する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、いつでも自由に外出することができる。外出時には職員が付き添いや見守りを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で声かけを行い、昼夜を通してさりげなく利用者の行動や様子を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物は、一人ひとりの状態に応じて施設で管理するようにしている。薬品等は利用者の目に触れない場所に施錠して保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命講習を受講したり、地域の協力を得て非難訓練、消火訓練を行なっている。薬は本人を確認してから手渡しをしている。状況に応じて離床センサーも使用している。		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時に備え救命講習を受講し、救急マニュアルを作成して徹底を図っている。	○	今後も研修を重ね緊急時に対応できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回消防設備等の自主点検を行なうとともに、消防職員、地域の方々の協力を得て年2回避難訓練を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の面会時や、家族会、ケアプラン更新のたびに起こり得るリスクと対応策について説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや日常の会話を通して異常の早期発見に努めている。変化があった場合には管理者、看護師等に連絡し、対応できない場合は直ぐに病院へ連絡、搬送することとしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容や目的、副作用が理解できるようにファイルを作成しており、服薬は直接手渡して誤薬を防ぐようにしている。	○	今後も全職員が薬の内容を把握できるように努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動や適切な水分、繊維質の多い食事やヨーグルトなどの乳製品を摂っていただく様にしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者の口腔ケアを行なっており、一人ひとりの状態や能力に応じた支援をしている。また、必要に応じて歯科受診に同行し医師からの説明を受けている。		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

自己評価 GHはなおけと すずらん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの物を持ち込んだり、写真や植物を置くなど、環境の変化が少なくなるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や臭気に配慮した器具を配置している。換気を嫌がる利用者には外出中、食事中、入浴中などに換気するように努めている。温度調節についても、利用者が体調を崩さないようにこまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活ができるように必要な部分に手すりを設置し、障害物は階段、廊下には置かないように安全に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式を活用して分かること、分からないことを把握するとともに、誤認や錯覚を起こさせないよう環境づくりに注意し、トイレの表示やお風呂の目印、各居室が分かりやすくなるように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	芝生や花壇、ウッドデッキ、ウッドチェア、ベンチなどを設置し、様々な用途に活用できるようにしている。また、職員と一緒に野菜、花作りを行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

自己評価 GHはなおけと すずらん

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 町内の行事には積極的に参加し、家族を含めた地域の方々との交流を深めている。
- 職員が同行し、町内の商店街で自由に買物ができる様に支援している。
- 利用者と職員が日常的に様々な時間を共有し、明るく、楽しく、住みやすい環境となるように努めている。
- できるだけ向精神薬や安定剤に頼らない介護、おむつをなるべく使用しない介護を行ない、体や精神状態が維持、向上するように努めている。
- 市街地に近く、買物や協力医療機関、地域福祉センターなどの施設も歩いていける距離にある。北側には1年を通して季節を感じられる山があり静かな環境で生活することができる。
- 多目的ホールを開放して地域の方が使用できるように環境を整備したり、ふれあい広場などの施設行事を企画、実行し地域の方々と交流するように努めている。